

よりん彩

第38号

2011. 11



よりん彩情報ライブラリー
企画展示「よりん彩スタッフおすすめ図書の紹介」

目次

特集 災害と男女共同参画 ～今だから考えたい～

- ◆ 私たちも、このまちを守る！ 日南町福栄地区女性消防隊【河上 睦子さん】… 2P～3P
- ◆ 子どもたちに寄り添って【灘本 百美さん】…………… 4P
- ◆ 笑顔になれる人を増やそう！【田中 尚人さん】…………… 5P
- 輝く人【山下 弘彦さん・影日 久子さん】…………… 6P
- よりん彩相談室・よりん彩情報ライブラリー…………… 7P
- よりん彩 SHOT! レポート・お知らせ…………… 8P

鳥取県男女共同参画センターの愛称「よりん彩^{さい}」とは、「ちょっと立ち寄ってくださいな」という意味のことばで、気軽に利用していただきたい、老若男女いろいろな色(彩)を寄せ合って男女共同参画社会づくりの輪が広がってほしいという願いが込められています。

災害と男女共同参画

～今だから考えたい～

災害時には、地域での活動や、家庭生活の場において避難所環境、復興にかかる協議の場への参画、ストレスなどの心的状況への対応など、様々な課題が浮き彫りにされています。

このような課題を少しでも回避できるよう、今回は地域での活動や、3月11日に起きた東日本大震災への支援活動の様子をうかがい、災害時、また普段の生活においても、私たちにできることについて考えます。

「私たちも、このまちを守る！」

— 日南町福栄地区女性消防隊 —

日南町福栄地区女性消防隊が「全国女性消防操法大会」出場に向けて練習中と聞いて、日南町役場に出かけました。

「全国女性消防操法大会」は、女性消防隊員や自主防災組織の女性消防団員の消防技術向上や、地域における消防活動に寄与することを目的として日頃の訓練を競い合う大会です。

今年は、横浜市で全国大会が開かれました。

取材に行ったその日は、日南町消防団、福栄分団の団員が、夜間照明設置をはじめ練習場所の確保、機材の準備をし、江府消防署生山出張所の指導員が、マンツーマンの指導に当たっていました。大会に出場するメンバーを含め20数名が、数日後に迫った大会（10月19日横浜会場）に向けての最終チェックです。

普段は庁舎と車庫の間のスペースで操法練習をしているのですが、その日は雨のため、個々人の練習は車庫内で行い、それでも最後の通し練習は、いつものスペースを使って、ますます激しく降り出した雨の中行われました。

「女性消防隊」そう聞くと、近年女性の消防士も存在するものの、まだまだ男性の仕事というイメージが残ります。そこで、河上隊長にお話を伺いました。



かわかみ むつこ
河上 睦子隊長

1. 結成のきっかけはどのようなことですか？

6年前に日南町から福栄地区に消防ポンプが提供され、当時福栄地区で活動していたソフトボールチームに消防隊の結成依頼がありました。

2. なぜ女性の消防隊なのでしょうか？ 大変だと思わないのですか？

地域の女性のソフトボールチームだったので、独居高齢者など、地域の状況を把握しているであろうということで声がかかったと思います。

それぞれが、普段の生活では外での仕事を持っていて、家のこともしなければいけない状況はきつと感じることがあります。練習のある日は、仕事から帰って急いで夕食の準備をしてから出かけるなどしていますが、家族の理解がないと難しいです。



3. 活動していこうとするエネルギーの源は何ですか？

小さな町ですが、この地区以外から福栄地区に来たメンバーがほとんどです。ソフトボールチーム時代からの仲間同士、フォローできる関係があるということが大きいです。

消防団の活動、普段の仕事、家事など日々の生活の中で「～ができない」という言い訳にはしたくない。・・・理解しあえる仲間の存在がありがたく、活動が楽しいです。

4. 西部地震、東日本大震災に思うことはありますか？

災害はあってはいけないけれども、遠い世界の話ではなく、いつ自分の身近に起こるかわからないものです。自分たちはこの全国大会に向けてだけでなく、普段から練習をしています。地域活動にも参加するなど、消防団員の横のつながりを作り、まちづくり協議会などの連携もできていると思っています。

そういったことが、いざという時には対応できる、情報の共有ができる、そういう仲間づくり、地域づくりにつながっていると思います。

5. 今後の目標はどんなことですか？ また、どんな消防隊を目指しますか？

団体としての形ができていますので、これをもとにさらに活動を広げていきたいと思っています。たとえば行政の企画づくりなどにも参画できたらいいですね！

チームワークを基本に、個々の役割を大切にするメンバーの動きにはきびきびとした中にも温かなものを感じました。

今回女性の消防隊ということで取材させていただきましたが、こういった地域活動は、決して女性だけのものではないことを実感します。もちろん隊員としての実働員は女性ですが、取材当日にもたくさんの方が集まっておられ、個々の練習には声かけ、指導、見守り、そして差し入れありと、地域あげてサポートして

いるのがわかります。今回は、大会の練習中におじゃましましたが、普段から練習や会合は開かれています。仕事を持ちながら、自分たちにできることを積み重ねていくという生活スタイルが、いざという時には、

自分たちで、地域を守る姿になっていくのだと深くうなずきました。

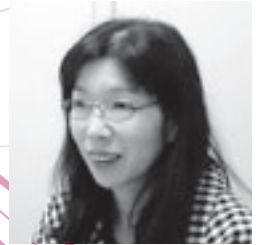
また、災害はいつやってくるかはわかりません。それだけに、地域に住む一人ひとりが地域の状況を知ることが大切なことです。地域にある特性を活かし、男女という枠にとらわれず、普段から地域の状況を把握し、一人ひとりができることをしていくということを教えていただきました。



「子どもたちに寄り添って」

スクールカウンセラー **なだもと ゆみ** さん **灘本 百美** さん

(鳥取県教育委員会事務局中部教育局 教育相談員)



東日本大震災の被災地支援に行かれた、灘本百美さんにお話を伺いました。灘本さんは鳥取県西部地震の際にも子どもたちのカウンセリングにかかわった経験があります。

1. どんな立場で、いつ行かれましたか？

震災に関連するスクールカウンセラーの緊急支援として、被災の大小にかかわらずカウンセラーの支援が必要とのことで、平成23年5月30日～6月10日の2週間、宮城県石巻市立門脇(かどのわき)中学校に出かけました。また今後も被災地に行く予定です。

2. どのような状況でしたか？

門脇中学校は高台にあり、校舎の津波被害は少なかったが、津波に遭い半焼した門脇小学校も中学校を使用しているので、小学生の姿も校舎内にある状況でした。家を流されたり、家族や親族、友達をなくしている生徒もいる中での活動でした。当時は避難していた住民が体育館や校舎におられる環境で、4月下旬から学校は再開して、生徒が学校生活を送っている状況でした。

3. 生徒さんにかかわって感じたことは？

中学校でのカウンセリングは、放課後などの時間に行っていました。カウンセリング希望を募って、話を聞いてほしい人が訪ねてくる、という状況です。希望する人に対応しますから、生徒さんは一日に1人～2人、話を聞いてほしい人、もっと言うと人に話せるという人が私たちを訪ねてくるわけです。内容としては、はじめから、震災に関する内容を話しに来るのではなく、現状の友人関係のことや勉強のことを語る中から、「亡くなった友達のことが受け止められないとか、整理がつかない、イライラする、学習が身につかない」などの様子や気持ちが見えてきます。

幼児や児童は「おなかが痛い」とか「頭が痛い」など身体に出て、そこから対応をしてもらえる場合があります。また自分の気持ちを言葉にできることで周りの人たちに理解してもらえる人もいますが、不安や思いを語れない人がもっといるのではないかと懸念します。また、学校の先生自身も被災している人が多い中で、多くの避難住民や生徒の支援をする人という境目のない状況が、先生方の疲労やストレスとして気になるところです。

4. では、私たちには、何ができるのでしょうか？

「災害時には死と向き合う体験をしていて、それは想像を絶することだ」などと、私たちが当事者の気持ちを勝手に判断してしまうのは問題があると思います。話されたことを、聞く(聴く)ことが大切です。また、心配があると訴えてくる人は言葉で表現できる人で、言葉にならない不安を抱えている人もたくさんいると理解したいです。言葉にならない人にも寄り添い、聴いてもらえるという安心感があってこそ語れると思うからです。さらに、カウンセリングを希望する人は、聴いてもらってどうこうしてほしいと思っているわけではないようです。カウンセラーはその場において聴かせてもらうという姿勢を忘れたくないと思っています。

取材を終えて
まとめ

平成22年12月に閣議決定された「第3次男女共同参画基本計画」の第14分野「地域、防災・環境その他の分野における男女共同参画の推進」には、「地域においては高齢化・過疎化の進行、人間関係の希薄化や単身世帯の増加などの様々な変化」に対して「地域における施策・方針決定への女性の参画拡大や、男女双方の、地域おこし・まちづくり、観光、消防団等防災分野への女性の参画、子育て支援活動への男性の参画により、男女共同参画の視点を反

「笑顔になれる人を増やそう！」



絵本読み聞かせ ^{たなか} 田中 ^{なおと} 尚人 さん

(絵本出版 株式会社グランまま社 取締役編集長)



笑顔のお父さんを増やすべく活動している、NPO 法人ファザーリングジャパンのメンバーでもある田中さんは、NPOの一員として、また個人としても被災地に何度も出かけ、絵本の読み聞かせなどの活動をしています。田中さんから、市民目線での思いを伺いました。

1. なぜ支援に行こうと思ったのですか？

ファザーリングジャパンの一員として被災地に行ったことがきっかけですが、子どもたちに笑顔に戻したいなと思ったからです。

2. 支援の内容は？

岩手、宮城、福島の3県の避難所の図書館や小学校で、絵本の整理や読み聞かせ、絵本ライブを行いました。

3. 行って感じたことは？

はじめ、自分はどんな顔で行って関わればいいのかととても悩みました。しかし、どれだけ笑いを交換できるのか、一方通行ではない会話や、笑顔をキャッチボールができるのかなのだと、子どもたちから教えてもらいました。

はじめ、笑顔の見えなかった子どもたちも「今度いつ来るの?」「またきてね!」とってくれるようになり、継続的に同じ場所に行く(大槌町や陸前高田など)ことにより、関わりを深め安心感を与えているようです。

読む本も怖い話は避けて「うんちっち」「ねえ、どれがいい?」等、笑えるものを持参するように心がけています。

子どもたちは笑いに飢えていて、自分たちを待っていてくれる。そして、笑いを求めているのだと感じるのです。さらに大人の生きようとするモチベーションは「この子たちの元気を取り戻そう」という子どもの笑顔からはじまるのだなと、子どもたちの周りにいる大人たちを見ていて強く感じます。

4. 男女共同参画の視点で何か感じたことはないですか？

避難施設は、管理者によってずいぶん差があり、段ボールの間仕切りの高さ、フリースペースや、こどもの遊び場、女性の着替え部屋などの有無にも顕著に表れていました。

また、海側の地域で特に感じることは、男たちが働く場所(職場)を失ってしまっている現実があります。働く場所があるということの意味は大きく、生きるモチベーションが下がってしまったものの、生活のために何とか働く場所を求めている状況です。

そういう中で、妻子を失った父子家庭を目の当たりにしました。現実以外の仕事だけしていればよい状態でなく、保険証のありかもわからないなど、家の中のこと、子どものことが、母(女性)任せだった実態が明らかになっています。今までの生活が、こういう時になっても容易に変えられない、「育児」で他の人たちと繋がれない日々を送っています。どう子どもたちに接したらよいかわからなかったり、子どもたちの不安が受け止められなかったりして、今後、地域のネットワークづくりが必要であると強く感じました。



映させることが必要」とあります。

今回、多方面からお話を伺いましたが、今までの災害における経験から、「普段の生活の中での課題が、突然降りかかった災害時に顕在化したり、強化されたりする」といわれています。教えていただいた様々な課題は、普段の生活の中でも考えなければいけません。ここで、今一度私たちの生活を振り返ってみる必要があります。

「輝く人」

よりん彩スタッフが取材した、
今、旬の「輝く人」を紹介します。

鳥取県西部地震復興の経験を、東日本大震災の復興に生かして

日野ボランティアネットワーク(ひのぼらねっと) やました ひろひこ 山下 弘彦さん (日野町)



山下さんは、鹿児島出身。全国を旅していた平成12年10月6日、たまたま訪れた米子で鳥取県西部地震を経験。その後、鳥取から離れたものの、被害の大きかった日野町がボランティアを募集していることを知り、再び鳥取にやってきました。それから11年。日野町でひのぼらねっとの事務局として、70歳以上の世帯へ毎月の誕生日プレゼントの配布と、生活の様子を伺う、「ひのぼらねっと高齢者お誕生日企画」を実施してきました。プレゼントには地域の方の特技を生かした1品を、子どもから高齢者までのボランティアで作製し、「何か困りごとはありませんか?」と書いたメッセージカードは町内の障がい者施設に協力してもらい、高齢者のお宅に届けてきました。

東日本大震災後は、10回以上被災地を訪れました。主な仕事は、行政と民間団体、ボランティアの調整。被災地に「人・モノ・金・情報」がどうすれば生かせるか、その地域の支援計画全般に関わり、立案や実施に関する助言や、関係者間の調整を行います。この全体を見てのコーディネートが非常に重要ですが、山下さんがこの役を要請されるのは、鳥取県西部地震復興やその後の全国各地の災害復興支援など多くの実績があるからです。

震災復興に一番必要な視点は?とたずねると「生活」という答えが返ってきました。「道路や施設、家など、まちの見えるところの復元に視線が集中しがちだが、長期にわたる場合、『人』とその『暮らし』に目をやり、長期の見通しを持ってあたる必要がある。」

また復興のためには、「日頃の地域のきずなが重要だが、繋がりをつくることと併せて『断絶しない関係』を維持するという意識も大切。しかし、行政や関係団体とは、いざ、災害が起きてから連携をとってもうまくいかない。日頃からの情報交換や話し合いが大事。」

「災害復興はイコール生活の復興。生活面では女性の方がより関わり、知恵もたくさん持っているが、指揮を執る人が男性ばかりというのはどうか・・・」長く災害復興に関わってこられた山下さんの印象です。

「山下さんはこれからの人生をどうしていきたいですか?」と尋ねました。「猝にとらわれない生き方を認め合える社会を創っていきたい」。山下さん自身が、新しい生き方の体現者であると感じます。

被災地に派遣された初の女性警察官

鳥取県警察本部交通部交通機動隊 かげひ ひさこ 影日 久子さん (日野町)



鳥取県警察が初めて女性警察官を東日本大震災の被災地に派遣した3人のお一人です。生活安全部隊の一員として東日本大震災から4ヵ月後の福島に派遣されました。目的は、被災者への防犯指導と相談活動。避難所や仮設住宅を訪問し、災害支援を装った詐欺の予防などの防犯指導や交通安全を呼びかけられました。

訪問は昼間だったため、若い人は仕事に出かけ、高齢者が一人で寂しく待っておられるところが多かったそうです。仮設住宅の訪問には男性よりも女性の方が安心されるのか「どうぞあがってお茶を飲んでいてください」と家に通されることは女性警察官の方が多く、被災当時の話をたくさん聞きました。「知り合いが、小さな子を自宅に残してきているので心配といって職場を飛び出していき、その1週間後に遺体で見つかった」。口調は穏やかであっても、語られる内容にはことばが出ないこともあったそうです。

滞在中、夜中に携帯電話から地震警報が鳴りました。けたたましい音にびっくりして目を覚ますと2秒後には震度5の地震。このようなことがしょっちゅう起き、そのたびに現地の人たちは、3.11を思い出し、ストレスを感じている・・・そう話される影日さんの表情は険しく、まだまだ続く震災の恐怖を思わせました。

しかし、「このような状況でも、笑顔を見せ『話を聞いてもらうだけでありがたい』といってくれる被災者の方たちに反対にこちらが勇気をいただくようだった」とも語られました。

「なぜ、警察官に?」とお聞きすると「陸上をやっていて、駅伝大会のときに前を先導していた白バイがかってよかったから」。「その夢はかないましたか?」と尋ねると「はい! 弟が駅伝大会に出たときに先導することができました」と満面の笑みで答えられました。「死亡事故もあるが、それ以外の人身事故もたくさん起きているので、今後はその防止に力を入れていきたい」と力強く語る影日さんの表情に、私たちの生活と安全を守ってくれる警察官としての頼もしさを感じました。

もし、あなたの家族や友達が、配偶者や恋人など身近な人からの暴力に悩んでいたら、相談できるところがあることを伝えてください。

DV(ドメスティック・バイオレンス)は配偶者等からの暴力のことです。なぐる、けるなどの身体的暴力だけでなく、どなる、人前でものしる、脅すなどの精神的暴力。また、生活費を渡さない、外で働かせないなどの社会的、経済的暴力などさまざまな形の暴力があります。

相談先

☆ **よりん彩相談室** (連絡先は裏面をご覧ください)

☆ **配偶者暴力相談支援センター** (県内3カ所) 月~金 8:30~17:15

東部: 鳥取県福祉相談センター (婦人相談所) 0857-27-8630

中部: 中部福祉保健局「心と女性の相談室」 0858-23-3147

西部: 西部福祉保健局「心と女性の相談室」 0859-31-9304

● **緊急時は警察総合相談へ** 0857-27-9110 (#9110)

相談での訴えは様々です

相談より

- ◇ これって、DV でしょうか
- ◇ 怖くてどうしていいかわからない
- ◇ 子どもの前で叩かれた、これって子どもにとってもよくないのでは?
- ◇ いつもバカにされているんです
- ◇ 誰にも言えないことなんですけど

「家族内のことだから」「自分が我慢すれば」などと考え、誰にも話せず、一人で問題を抱えこんでいることが少なくありません。どうぞ少しでも早く相談をしてください。

相談は解決の第一歩です

オススメ
BOOK

よりん彩情報ライブラリー

防災・復興に男女共同参画の視点を!

これまで、主に男性の仕事と考えられてきた「防災・復興」。そこに男女共同参画の視点を取り入れることで、被害を少なくしたり、きめ細やかな対応ができることがわかってきました。「防災・復興」の新たな視点を提案した図書を紹介します。



地震は貧困に襲いかかる

いのうせつこ / 著 花伝社 2008年

震災の被害は平等には起こりません。阪神淡路大震災を検証すると、高齢女性、外国人、障がい者などの被害が大きいことがわかってきました。社会の格差や貧困が震災とどうつながっているかを探ります。



女たちが語る阪神・淡路大震災

ウィメンズネット・こうべ / 編 2007年

プライバシーの無い避難所での困難な生活、パートや派遣の女性たちの解雇・・・震災後、女性たちが直面した現実とは? 怒り、悲しみ、そこから立ち上がろうとした女性たちの声を集めた文集です。



災害と女性~防災・復興に女性の参画を

ウィメンズネット・こうべ / 編 2007年

阪神淡路大震災、新潟県中越地震をはじめ世界各地の災害をジェンダーの視点で検証した貴重な資料。性別に配慮した避難所の設計や物資の備蓄、乳幼児の母親に対する支援など、防災・復興には女性の視点が必要であると訴えます。



地震イツモノート

地震イツモプロジェクト / 編 木楽舎 2007年

「地震の瞬間や直後、何を感じ、考えたのか。」体験者の気持ちをまとめた防災マニュアル。地震大国で生きている私たちは、防災を生活の一部ととらえ、心構えしていくことが大切です。「モシモ」ではなく「イツモ」。これからの防災のキーワードとなりそうです。



「わたしの防災力ノート」

横浜市男女共同参画推進協会・横浜市市民局男女共同参画推進課 / 企画・編集 2009年発行 2011年改訂

震災を経験した女性たちの声をもとに、災害時の課題を整理したノート。誰にとっても安心、安全なまちにするために、このノートを参考にしてみませんか。

利用のご案内

- ・貸出点数 …… 図書10冊、ビデオ・DVD 2点
- ・貸出期間 …… 3週間
- ・団体貸出 …… 100冊、8週間の貸し出しができます。
- ・よりん彩ホームページや「鳥取県図書館横断検索」で資料が探せます。
- ・県立図書館や市町村図書館に申し込み、取り寄せができます。

さい よりん彩

Shot! レポート

平成23年7月23日、8月6日、27日

団体活動支援補助金事業…「ママたちの
ホップ・ステップ・ジャンプ」



自己分析で自分を発見。
私ができることを考え、
ライフデザインを作りました。
講師 松下 香寿美さん

平成23年10月6日、13日、20日

人材育成協働事業…「実践的講師養成講座」



さあ！実践。
自己表現できる講師を目指します。
講師 横本 千里さん、福井 正樹さん

平成23年8月7日

男の人生マネジメント事業…「男の人生復活祭 その巻」



定年後の人生、
充実させなくちゃ！
講師 小田 貢さん

平成23年9月14日～16日

よりん彩で倉吉市立西中学校の生徒さんが職場体験！



子ども室のディスプレイ。
こんな感じに変身しました。

平成23年10月28日

共同参画時代の自分磨きセミナー…「就職
最前線！ー私にとって『働く』ということ」



パネラーの素直な思いや
経験を聴いて
『働く』イメージが
変わりました。

平成23年秋の叙勲「旭日双光章」受章おめでとうございます！



井上耐子さん(元鳥取県男女共同参画をすすめるネットワーク副会長)が、旭日双光章、男女共同参画形成推進功労を受章し、11月8日総理大臣官邸で勲章の伝達を受け、次いで皇居で授与されました。

井上さんは、よりん彩設立以前から女性の社会参画の推進に寄与され、現在も琴浦町男女共同参画推進会議会長として地域の男女共同参画をすすめています。

最低賃金

鳥取県 646円 (平成22年度 642円)

全国加重平均額 737円 (平成22年度 730円)

(平成23年10月29日 発効)

詳しくは、鳥取労働局労働基準部賃金室
(0857-29-1705) 又は最寄りの労働基準監督
署へお尋ねください。

鳥取県男女共同参画センター よりん彩

〒682-0816 鳥取県倉吉市駄経寺町 212-5 倉吉未来中心1階

電話(代表) 0858-23-3901 FAX0858-23-3989

HPアドレス <http://www.pref.tottori.lg.jp/yorinsai/> 電子メール yorinsai@pref.tottori.jp

「よりん彩」は県民皆さんの
施設です。お気軽に
お立ち寄りください

センター相談室(倉吉：よりん彩内)

電話：0858-23-3939

火曜日～日曜日 午前9時～午後5時

土、日、祝日可(月曜が祝日の場合は翌日が休み)

専門相談(法律相談・心の相談・男性相談)も
行っています(予約してお越しください)

東部相談室

(県庁第2庁舎1F)

電話：0857-26-7887

西部相談室

(米子コンベンションセンター4F)

電話：0859-33-3955

月曜日～金曜日 午前9時～正午、午後1時～午後5時
(第3木曜日は午前9時～11時30分)

※広報紙「よりん彩」へのご意見、ご感想などをお寄せください。次号は平成24年3月発行予定です。
よりん彩ネット・電子メールの配信をご希望の方はよりん彩メールアドレスへご連絡ください。